定期月三回

新いはき

發行日　一、十、廿、三回
編輯兼發行人　諸根樟一
印刷人　諸根樟一
福島縣石城郡平町白銀町十一番地　新いはき新聞社
發行所　振替東京六九三〇六番
本紙定價　一部五錢、一ケ月十五錢、一年一圓五拾錢
廣告料　一行三拾錢場所指定拾錢增

近事評論

「新いはき」廢刊し「鄉土文化」を再活

鄉土文化會の存續

磐城地方に只一つ純粹鄉土の文化を研究する鄉土文化會は、昨春以來屏息の狀態にありて何等初期の宣言に何日しか遠ざかり、惱みの中にあつたが、決して之の會の事業及運動は絶廢したのではなく、當時經濟上に基因して機關雜誌「鄉土文化」の發行すら持續することが出來なかつた故等である。

◇

該會の設立に盡瘁し夫れに一身の犧牲を捧げて來た諸根君は、此の雜誌の廢刊後之が會の消息及其念願とする鄉土思想、主義の唱道に幾何の一端を傳へる可く、是にかへたものを欲して即ち發行し易き普及的新聞に化し之を個人の奉仕として親ら主宰し依然鄉土社會に報ずる正しき印刷文（〇〇〇（新聞）となし、自鄉の文化に報ゆる本來の意見と且つ鄉土今日の危急的當否を訊す理論に於て諸根君は强力に主張し殉じて來たのは周知である。

◇

一年「新いはき」は故にこゝ一年なる片々の田舍紙聞を諸根君の勞作に因つて毎月一回或は三回を發行し、自ら其度に不明と杜撰を知りつゝ之を鄉土民衆に頒つてゐたに不拘、意外にも聲援と激勵を荷された諸根君は寧ろ聽ぢたる感なきに非ず。

◇

些ばかりの「新いはき」にうけたる之等の一語は、實に諸根君の立脚して來た一小新聞を價評する民衆の欲求的好意たるばかりでなく、開れは將に民衆夫れ自身が鄉土文化への道行を認識する偽らざる表言にして同時に磐城を知る鄉土人の眞精神の實在を更生する開始期として更に悅ばねばならない。

◇

此に於て、諸根君は自己の「新いはき」が本月を以て全一年を限りに廢刊し、鄉土文化會の存續を希ひ舊の同會役員に諮りて第一に要する「鄉土文化」の復活を期し、新年より再刊に決したのは、諸根君の凡ての行動上にとり何よりも選びたる當然の復歸である。

平局にて「電報案内」を

各署及關係へ頒布

電報の記載方に關しては諸人一樣ならず、往々にして誤謬失態を釀すを遺憾に付此の弊害亂雜から取り除く爲に「電報案内」なるパンフレットを平局にて夫々の公私署及關係所に配布した

大越中佐銅像寄附打ち合せに

植竹氏單身町村巡り

大越中佐銅像寄附申込は其後意外に增額に達し、之の打ち合せ等に會長植竹氏單身郡下町村を歷訪し激忙を極めてゐる。

紅葉せる磐城の耶馬溪へ！

夏井、四時源谷の錦繡

川前と川部へ！

本郡否上野驛以北海岸線中觀楓の名所として勿來驛奥四時川（川部村）及平郡線川前驛の下降夏井川（川前村）の兩源谷の美は世間に公評あり、且つ地質學研究上の貴重地方にして、今や附近一帶紅葉爛飽のの裝を競ひ諸客を持つてゐる。

共濟第六回巡回診療を植田にて

新院長菊地博士以下を引率して

前院長助川博士時代地方巡回診療は第五回まで施行し前院長は且つて出張しなかつたが、今般新院長菊地博士は自ら先導となり野田、松野學士等を從へ本月一日植田町に回診郡南の保健上に多大なる貢献をした。從前の院長及藤井博士の時の往診料は彌々高き爲爾後よりは菊地院長の往診を受ける際は平町は五圓とし同一患者は何回往診を受くるも其料を取らず、又地方行は夫れに準じて昇せることに亦入院料は會員一圓三十錢一般人は一圓五十錢（食費を除く）に低げ貧困者、行路病者若しくは醫學上に參考する病體者には本會及院長の愼重な協議を經て無料にて治療又は收容をする又各種の衛生試驗及溫泉鑛泉等の分析等も應じ理化學的の檢査も爲す由。尙同院には目下產婦人科、耳鼻咽喉科の急設を要し、其の醫部長等中央に於て選衡中なれば近く就任の筈である

磐城文化の振原ステーヂ

平劇場近來の上演物

草野氏の活躍

平白銀町に建てる本郡第一の平劇場は爾來、政治及劇其他のステーヂに便用され磐城の民衆運動は實に此の大劇場の存在に俟つもの多く去月廿八、九の兩日は五月信子、池田義信等一行の新古典劇を輸入したる如き草野社長の努力甚大である

都山流尺八師範

近く平町に開所

世界的に有名な都山流尺八の敎授所を本郡地方に喝望中の處、今回宗家大師範倉川築山師の高弟越智章師（現在四倉町在住）が本月中に平町に敎授所を設けて一般に敎授するに至つた。

本郡社會運動の最初の犧牲

檢束者二名の放還を迎へる赤旗

石城郡湯本町入山炭礦立國勞働自治會（資本家側）は去月卅一日天長節を卜して三國聖に發會式を擧げたがその日、日本勞働總同盟の磐城・入山・丸茨各支部員は同會場に押しかけたるに之が入場を拒絶したので茲に兩者の騷擾を起した結果日本坑夫組合員二名は平署に檢束され本月一日放還された放還の日同組合支部員其他

◇憲政會演說會
◇上原師演奏會

右記事二面にあり

の會員は右の二者を引き取るべく早朝より平署前に蝟集し赤旗を高揚し勞動歌を唱して待ち受け、〇〇〇〇磐陽社會運動最初の犧牲者を迎へて勞働總同盟支部に引き揚げた。

平の在米高

穀物檢査所平支所管內一日現在、在米高九千六百七十四石で內地主持米千三百六十二石自作農持米四千九百二十六石小作持米九百四十六石商人持米二千六百十七石で前年同期に比し二千九百八十石を增したのは地主及び小作の持米が多いためで商人が却つて百七十六石の減少を示してゐる。

紅き心に彩られたる建築美の徵象!!

赤心堂病院の地方的位置

院長新妻由五郎氏と川前分院設立理由と其他

◇本院名の由來（標語）

赤心堂病院とは、前創立者ドクトル柳澤篤氏が米國遊學中に命名し歸朝後英語のレット・ハート・ホスピトル（THE REDHEART HOSPiTAL）意譯眞心卓むる病院、直譯赤心病院、と謂ふわけの病院である。因つて院名を標語として、地方濟生上に聊か盡瘁する所以である。

◇新妻氏の略歷

明治三十二年慈惠醫大を卒業し、後ち帝大外科の泰斗近藤次繁博士に私淑した。續いて翌年有名な金杉英五郎博士が歐州より歸朝して慈大に始めて耳鼻・咽喉科の講座を設けた時、新妻氏は博士に師事したる等前後三年を研究に沒頭し茲に兩大の學室より豊富な醫腕を携へて一歩街頭に出た。始め山梨縣立病院醫長に任用され、外科を擔當したこと四年。夫れより大阪及朝鮮等の大病院の樞席に任用され益々氏の國手的靈腕を發揮した。次いで鄉土の爲めに德憑されて大正十一年歸鄉し平町に開業した。

◇地方に於ける人位

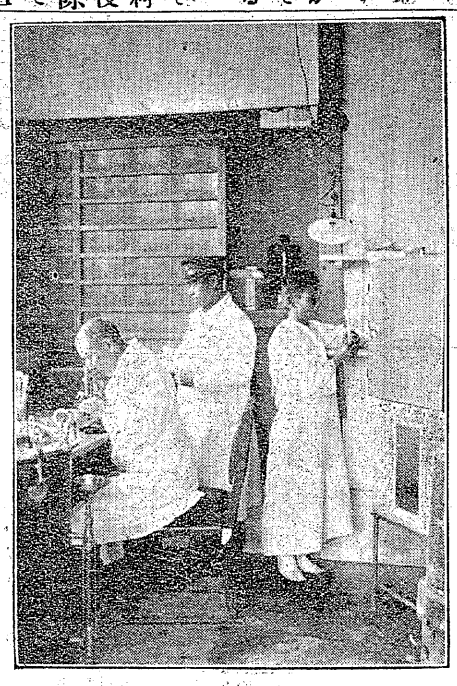
平町は醫師の多きこと稀なるの地、從て同業者中に於て種々なる階級鬪爭を曝露し往々最高紳士間に痴態を示すことあるが、新妻氏は且つて斯界よりは更なり一般民衆からも決して非難されしことなき、人格圓滿にして學究に富み人と接するに謙讓にて、柔和、患者には慈父に似たる溫味を以て診察を執る。又御內室は舊泉藩郡奉行逸見氏の息女にして、現今の虛薄な女性の習俗とする貴女的不貞色毛程もなく、院內外に能く勉めて誇らない所に一般より敬慕されてゐる。

◇院內の設備

前經營者柳澤氏の醫療機械類一切を承繼し併せて自己從來のものと二院分を有してをり、X光線の如きは地方醫院中第一の光力を出す機械を備へてをる。之等から推して他の病院に比して決して劣らぬものと信ずる

◇川前村の分院

川前村は本郡の最北端にて田村郡境に接し面積は三村位を有し平町より六里、役場所在地たる大字川前を除く外は皆山村僻落の字にて從つて醫師を急用する場合に於て東西四里間に至らざれば無き不便の村である。尤も本村に從來醫院が存在したが今年四月久々濱町に轉業したに仍て村民の憂慮甚しく、之により現村長永山德一氏其他の有力家より新妻氏に度々懇請し村費より補助するから本村に分院を設置されたい、の議起り遂に新妻氏は村費補助等の一切は回避して、分院を驛前に設け、爾來同院醫員と交互に出張し本村及濱境の小野新町三坂永戸上小川村等方面まで延展し此域地方濟生上の貢献多大である。



◇實驗室に於ける新妻院長と助手

良品廉賣に勝る商略なし
確實敏捷は㊋の生命なり
◇價格最低
◇在庫豊富
◇出荷迅速
◇金取引
和洋銅鐵物問屋㊋釜屋商店
振替口座東京一〇九五六番
金九番・一三九番

◇公告◇
『町村誌・史』編纂囑託に應ず
◇編纂は學術的に責任を負ふ
◇著作料は實費にて應ず
出版物編輯及飜譯
鄉土社
白銀町一一
振替東京六九三〇六

共濟病院長菊地博士は

ビタミンBの研究學者

東大醫學部長林博士の高足

共濟病院前院長醫學博士助川喜四郎氏辭去後、一般より後任院長は果して前院長に匹壽する人を需められるか否やを危惧されたが、當時同病院の紛糾が中央醫界の輿論注目となりて遂に偶然にも東大醫學部長林博士東宮侍醫松永博士及稻田博士等の同情を請け菊地博士を推薦され新院長に仰ぐに至つたは同病院の絶對な幸福にして、前院長に比し其の醫學を研究する信念に於て自已を持する精神に於て人に接する謙讓なる態度に於て或は風丰の高尚なる點等に綜合して決して前院長より恥弱ならず、加之ず菊地博士は只に藥物若しくは細菌學者の一箇に偏核せず醫士の尤も本領とする臨床醫學に造詣深き士にして徒らに有名無實な醫學博士濫造時代の中に輩出する類の醫博とは異り實際に病患者を治療するに異常な天分を具ひてをる。

次に菊地博士の略歷を示せば

奈川縣小田原在出身、小田原中學第一高等學校東大醫學部（大正七年卒業）等を經て後ち稻田内科に駐り三年間研究。夫より大阪市高村病院長たること一年半、更に東大に戻り藥物學教室に於て二年間研究し、東京市療養所に一ケ年在勤今日に至る。

博士主要論文は大正十四年三月、ビタミンBの欠亡即ち脚氣の研究を東大に提出して大正十五年四月審査の結果學位を授與された。

院長以下各員に於ても地方醫界稀に見る人格と學究を恰博に抱く人々なれば、同病院今後の所信宜しきを策するならば東北に入る關門地域たる當地方の民衆が保健上に寄與することの如何に大にして亦從來の當地方衛生社會に一種の著き革命を期されるものとして甚だ同病院の菊地博士及以下の諸士に對して最高の敬意を拂ふものである。

郡内 私立學校數 縣下第一位

補助教育機關たる所謂私立學校なるものゝ數、本郡を以て正に縣下第一位の多きに在つて猶益々增設される現象に至つては、果して地方の爲に幸か否かの觀である。之等の私校が殖えて行くことは一面教育を利商に換へた即ち學校營業に趁つてゐることになる虞れあれば、由々敷問題である、左に現在の數を示す。

平町
湯本町　磐城裁縫女學校
上遠野村　四倉町　藤田分校
磐崎村　共和裁縫女學校　磐城職業女學校　磐崎鑛業學校
（以上十五校）

郡外の數を上げれば

安積郡　四校
安達郡　一校
耶麻郡　三校
西白河郡　二校
田村郡　一校
信夫郡　五校
北會津郡　五校
石川郡　一校
双葉郡（分校共）二校

右と對比して本郡の如何に多きかを知らる。

元代議士高岡氏 還暦新築兩祝ひ

十月十七日朝野の名士を招宴

去月十七日十八日の兩日草野村一代の寧馨兒元代議士高岡唯一郎氏は還暦に達し此祝賀と共に三年來の宏大な居邸新築落成式を兼ねて朝野の名士三百名を招待し盛筵を張つた。

磐城より出版したる圖書

最近卅年間に於ける石城郡内公刊數

次に掲げたのは、明治卅年以來本郡より出版したるものを示すものにして、之れ以前は概して校本或は木版活字として公刊したるもの約五十種に止まり、其他は原稿として散佚ながら傳へ一部の研究者、關係人に保存せらるゝものである。

◆

本郡出身にして中央より發行せるものに星一藤澤衞彥、赤坂亀次郎氏等にて、鄕土の學究界は蓋し寥感せざるの思ひがある。

次の表中に尙漏れたるものあり、又括孤下の非は非賣品、賣は賣品にして、列擧したる圖書中、現在市頭に求めらるゝは此數の約五分の一に過ぎぬ。

書名	著又は編者
石城郡統計書	石城郡役所（非賣）
石城郡勢一班	同（同）
石城教育事蹟	縣教育部會（同）
石城の華	平町消防組（同）
江名水產誌	江名漁業組合（同）
平町上水道誌	平町役場（同）
新裁縫教科書	故藤田しな（賣）
裁縫の栞	同（同）
家事教科書	酒井みよ（同）
實用禮法教科書	同（同）
實用裁縫參考書	同（同）
養蠶飼育の母	木田藤次郎（同）
戊午之夢	植竹源太郎（非）
師弟の情誼	同（同）
大越中佐傳	同（同）
大越中佐小傳	同（同）
大越中佐少傳抄	同（非）
同	同（賣）
大越中佐の述懷書に就きて	清野才二（非）
我が修養	故森合仙太郎（賣）
同	同（同）
農村愛すべし	高萩　章（同）
現代青年の爲に	同（同）
新修養	磐城總まくり（同）
戰を追うて	石城めぐり（同）
滿朝九洲地方教育視察實況	故横内直温（非）
大橋彌太郎（非）	四倉町案内（非）
故大須賀次郎（賣）	石城みやげ（同）
故森合仙太郎（賣）	石城產業誌（非）
故森合仙太郎（賣）	產業組合教科書（同）
故森合仙太郎（賣）	蒟蒻栽培と其研究（同）
故森合仙太郎（賣）	故山形散人（同）
故森合仙太郎（賣）	佐藤昌介（同）
故森合仙太郎（賣）	故味岡禮貿（同）
故森合仙太郎（賣）	平安會（非）
故森合仙太郎（賣）	四家文吉（賣）
故森合仙太郎（賣）	同（同）
故森合仙太郎（賣）	同（同）
故森合仙太郎（賣）	同（同）
故森合仙太郎（賣）	吉田壽三郎（同）
故森合仙太郎（賣）	半谷政喜（同）
故森合仙太郎（賣）	吉屋義榮（賣）
故森合仙太郎（賣）	酒井專治（非）
故森合仙太郎（賣）	鈴木　林（賣）
故森合仙太郎（賣）	新妻掬浪（同）
故森合仙太郎（賣）	其社（同）
故森合仙太郎（賣）	大和田興平（同）
故森合仙太郎（賣）	故土屋　寛（同）
故森合仙太郎（賣）	同（同）
故森合仙太郎（賣）	吉村松三郎（同）
故森合仙太郎（賣）	山田政好（賣）
故森合仙太郎（賣）	鈴木昌雄（同）
故森合仙太郎（賣）	横山　顯（同）
故森合仙太郎（賣）	井上茂作（非）

關東及東北に誇る大鐵工場

釜清商塵勇飛現況

海、陸機械製作界清治氏の事業と河田梅吉氏の努力

常磐炭礦業及船舶界絶落の今日、各工場は殆ど休止同樣の狀態の中に獨り不況を越えて益々製作品の註文激增を極め、現在毎月四萬圓の生產率を示し尙其等の能率を上騰しつゝをる同店は清治氏獨特の機略を劃する外に常にエンヂン類の發明に苦心し己に帝大竹村博士より推賞されたTS式小型舶用發動機の如きは五年來の販賣數樺太、銚子の沿海間にだけにて六百基に達してをり、又目下は磐城セメント會社納品及各炭坑の汽罐、喞筒等の製作に遂はれてゐるに見ても如何に各縣に亘つて同店の俄大な勇飛力が延勢されてをるかを證される。

同店主清治氏の奮鬪成功を直視する時に河田梅吉氏を想起する。嘗つて氏を人評したるものには

今日の釜清商塵の元を成さしめたのは一面河田氏の功勞である。氏には工場全部の職員が米のフォート翁の如く尊敬したるに見ても氏の情誼と義俠の厚さが認められるとある。又清治氏を評したるものには

大正七八年以來鑛業界勃興時代に乘じて孤軍磐城に來り大釜清商塵を築いた氏の神速さには、地方同業者を威壓する觀なきに非ず。今せば、

福島縣石城郡平町白銀町
電話國三二九
電報（セイ）
出張所　東京市本所區緣町五ノ二九　電話三八六四
主任　瀧　滿壽
出張所　青森縣三戸郡湊町久保
主任　忽那作平
分工場　青森縣三戸郡小中野町訪瀧貞
主任　清

諸機械工具類
輸入製作販賣
TS式舶用小型發電元
石油發動機製作
トバタ式小型石油發動機一手代理

次に同店の商標及名刺を示しては青森及東京の三出張所を設立し工業界の沈滯を一家にて打開せん勢力で進んでゐる氏の人格又圓熟、謙遜にして對者に惡感を抱かしめぬ所に氏の美善が無限に現れて、事業の大と併行しゐる。

繪具・カンバス・額縁
帝都ハ今美術の秋の
田園は羅綾錦繡筆に親しむ好期
マルトモ柴田書店
平町四丁目電話二三四番

大日本麥酒株式會社
攝津酒造株式會社
清酒『大和錦』
五十嵐商店
平町田町驛前通
電話國五二九番
振替口座仙台一四五五番
平局私書函一一號
特約店

星氏無罪祝賀會

鄕里錦小學校にて

石城郡錦村青年團主催で同村出身製藥王星一氏が臺灣阿片事件で過般無罪となつたのでその祝賀會を去る廿一日午後一時から同村小學校で開き多數の郡内有志も集り非常の盛會を極め星一氏は事件の經過を報告し同五時發で即日歸京

石城憲政の大講演會

來る九日

石城郡憲政會では今議會の多端に處して東都本部から吾黨政策の氣焰を上べく演說會開催に關し日時其他を照會され目下計畫奔走中であるが同演說は本月九日に平町に於て二箇所郡内に於て二三ケ所に開催比佐代議士は勿論安達遞相外多數名士の應援がある。

上原眞佐喜師一門を率ゐて

訓盲院に義捐公演

本月廿一日に

山田流琴曲大家上原眞佐喜師滯平中幾多本郡に貢獻したことは鄕土誌上に特筆するものにして今回復た訓盲院新築に義捐すべく來る廿一日に平劇場に於て一門を率ゐる三曲（尺八、三絃、琴）を晝夜二回演奏し其の收入を寄附するに決定した。

◆論文募集◆

石城郡川部村釀造元案内
銘酒『改勇』　櫛田作太郎
銘酒『白山』　芳賀嘉右衞門
銘酒『四時川』　小野魯平

磐城の誇り鹽屋の醬油
釀造元　福島縣平町
山崎合名會社
電話（營業部一〇番　釀造工場二七番）
上野車坂町四三
東京支店
電話國淺草五七二八番
振替東京六八三一番

磐城の誇り鹽屋の醤油
醸造元
福島縣平町
山崎合名會社
電話（醸造工場二〇七番 營業部一番）
振替東京一九七五五番
上野車坂町四三
東京支店
電話浅草五七二八番
振替東京六八三一一番

郷土史上の研究問題

本郡戊辰の役遺聞（一）
勿來陣に於ける雲井龍雄の遺詩
維新を背景とする志士の遺史を探れて

諸根樟一

戊辰の役、本郡に三つの誇る可き遺史を存在する。一は北白川宮の陸奥に轍軻し給ひる時、御上陸地たる平潟を經て本郡に御二泊遊ばされた光輝ある御事蹟と、二は維新の志士雲井龍雄の勿來陣に於ける敗戰前夜の遺詩、三は泉藩より輩出したる大義名分の士松井秀簡等にして夫等に就いて、公刊せる史書中には概して眞ならず。

私は、殊に宮の御遺蹟と雲井龍雄の勿來に屯した事實等に關しては三年來、參考書外に、前者には當時の御通行筋と、後者には所謂本郡地方の戊辰戰跡を往復して探究する等數十回に及んでゐる。次に記したるものに謬見あるならば、何卒先輩研究者の叱敎を乞ふ。

一　兩雄初めて會す

維新の奇傑、米澤藩士雲井龍雄（本名中島猪吉）元彰義隊の將士林昌之助（上總西ノ城主）及び遊擊隊長人見勝太郎等まだ平潟に上陸せざるの以前、龍雄京都より江戸に東上する途次、人見と駿河に於いて初めて識り、時運を慷慨し薩・長等を討たんことを約し、再擧を期して別れた。

二　輪王寺宮を奉ず

之より先、明治元年五月十五日、人見等彰義隊に加はりて上野東叡山に據り、寛永寺祭司輪王寺宮（御後名北白川宮能久親王殿下）を擁して官軍に抗して潰敗し宮を奥羽に奉じて小田原藩の援けをうけ品川灣より幕府の軍艦長鯨丸に乘じて脱走し陸奥沿海の咽喉地たる常陸磐城の國境、平潟港に上陸したのは此の月廿八日の黎明である。

遊擊隊の兵上陸して、宮を平まで警護し奉り御二泊（泉に御一泊後）三十日會津に向へ御出發し給へるには、其の一部隊及び磐城三藩の兵其の他の藩臣にて送り奉り、人見等は平に駐まり聯盟軍と力を戮せて戰ふことにした。

三　龍雄會津より磐城に奔る

六月十六日、官軍大擧して平潟港に上陸した、仍つて翌十七日、遊擊隊は仙・米・磐城三藩の急先鋒となり應戰し、九面及び關田を守つた。龍雄之を會津にて聞き、同士原直鐵（會津藩士）と共に人見の兵を援けんとし走つて遂に勿來關址下の濱街道（今の國道）陣に邂逅したるは廿一日、松川浦に落日將に染めんとしてゐた時である。彼等の兩雄、暫し手を取り合ひ涙に咽び、俱に回天の壯圖を誓つて兄弟の約を結んだ。

一時は人見、龍雄、原等の力により聯盟軍の士氣猖獗を極めしかど、官軍の精鋭急擊にして支ひる可くもあらず、廿三日既に勿來關址下及び關田の地點間より卻退するの止むなくに至つた。其の夜關田原（今の省線堅道北方松林）に陣營し、人見龍雄等も亦中に在り、酒を交して悲歌會談した。後ち人見、龍雄に哭いて曰く「吾等の些少な義兵を以て、奥羽の聯盟を維持せんことは及びもつかず、然れば吾等は今夜此所に破れるに仍て北走し榎本等の軍艦を追うて陸奥に落ち延び最後を決したく思ふ」と語つた。龍雄之を聽き慨然として「官軍已に白河城を陷れ、進んで會津を攻めんとしてをる、會津は我が米澤の要地であれば、余は今より行きて其所を救ばん」と叫びて流涕した。

四　壯士復び別る

龍雄、人見と再會して旬を出でざるに之等の壯士此所に訣別せざるを得ず復た何れの日か相會するか。居並ぶ帷幕の將士及び兵卒共に兩雄が心緒の嗚咽するを眺め見て、歔欷然たる光景であつた。龍雄、今や人見と離れるに際して大いに酒を陣中に傾け最後の別筵を開き悲壯の裡に乾杯し高潮した、即ち一詩を賦し、自ら立ちて亂舞し、而して人見に遺して贈つた。

五　勿來陣に於ける遺詩

平潟之灣勿來關
石路徑徊巖洞間
怒濤如雷噴雪起
嚙去嚙來海嚙山
地形雄偉冠東奥
一礮守之誰能攀
君航東洋來此地
目擊區處防海軍
難奈秦兵威不振
風聲鶴唳肝膽墮
君猶叱咤衝賊陣
指揮死士彈且刺
彼衆我寡勢不便
咽喉之地忽然棄
大梁擧兵救趙來
函谷之關可擊推
縱令此地棄不守
雪耻有期君莫哀
我亦潛行唱兩毛
襲大都欲刺二魁
義兵一時起賊背
掩擊盡之亦快哉
勝算歷々在方寸
我任此事敢不遜
今日別君君自愛
唯須詩酒遣病悶
金風嫋々吹鳧水
三十六峯稠色美
此時與君相笑迎
敖遊好携東山妓

斯くして翌廿四日、聯盟軍植田に退却する一瞬時前初夏の曉明頃、龍雄、原の兩人は關田より永遠に人見と別れ再び兩毛に入り野州に走り下野の湖山（沼山）に於いて義兵を擧げたりしが、因より王師に抗して捷つことを得ず、彼等は復た會津に還りしは落城前の八月末である。

六　附記

曩に、龍雄及び原の同士は上野の彰義隊に加はらず同年四月上旬以來、大鳥圭助の軍に合して野洲の各地に轉戰し屢々官軍と戰つて破れた。時に會津及び磐城の益々急を告ぐるに至り、兩士夫々歸藩し、龍雄の米澤に歸りしは其の年の六月七日である。

彼れ歸藩後、浩瀚なる討薩ゲキ書數部を草し之を列藩に配布益々連衡の氣勢を揚げしめた。後ち會津藩士（松平容保）に直面して官軍に抗する策術を講せしが用ひられず、仍つて決然として六月十七日、同士の原を伴へ磐城に在る人見を援けべく奔り勿來陣に着きたるは先の二十一日夕である。（完）

◆參考

一、遊擊隊とは、相洲小田原にて官軍と戰ひ敗北したる小田原藩軍の一部及び人見長太郎尋が義兵を以て組織した舊幕臣の兵である。

二、明治元年七月一日、原ノ町に小鳥權六（實は龍雄か）滯在す、とあり。

三、人見等の率ゐる遊擊隊は、平城陷落の前、即ち六月末に相馬沿海地方へ下つて守つてをり、或は小島權六なる者もゐたか。

四、明治三年十二月廿八日、龍雄朝憲を紊亂せるものとして、江戸傳馬町に刑殺さる時に年廿七。

五、人見、會津陷落後十月八日揚本、大鳥、土方等と共に箱館に走り十日、五稜郭を占領して據り翌十一日、土方、人見等松前を占領し尋いで全道を平げたる時の布制中に、「松前奉行人見勝太郎」とある。

◆參考書

一戊辰私記　二維新史料　三幕末史　四大日本人名辭書　五北白川宮御上陸參考書　六平潟村誌　七同郷土誌　八多賀郡史　九維新の人物　十雲井龍雄　十一維新志士詩集　二野口勝一記錄　三松井家祿　四瀧川濟日誌等。

ウシク子供洋服店
平町に只一つの專問ストアー
平町田町角丸山ビルデング内製作品の廉價販賣店を有すウシク洋服店（本店舊郡役所前通）は文化的に營業をとり一般士女の洋裝生地を實費にて切賣し、又は實地講習會を開きて敎授してゐることは何よりである、詳細同店へ照會あれ。

古本は郷土社へ
上品　紀西町

平町各病院
諸官署
御用
配達迅速の
水野氷室
平町白銀町電話三二番

大人二大常設
活動寫眞館案内
松竹直營
平館
二丁目裏電話四六六番
帝活直營
有聲座
平驛前通電話四四六番

日本簡易火災保險株式會社
平に代理店設置
佐藤鐵工所にて引受
本社を大阪北區堂島濱通りに依りて引き受けるに至つた。人間住居上火保の必要三丁目に有し、本縣支部を福島市中町六六番地に有つなるは現代言を俟たず、佐該社は全國的に信用博大に藤氏は工場作業に支障なき して、本月平町に代理店を限り外交員を督勵して、時急設することになり、平町下火災季に向つて募集に躍佐藤鐵工所主佐藤源五郎氏進すると、申込所次の如し
日本簡易火災保險株式會社平代理店
佐藤鐵工所營業部
佐藤源五郎
福島縣平町月見町三、三、番地
電話三六二番
本社　大阪市北區堂島濱通三丁目
福島支部　福島市中町六六番地

荷入數多服洋成既及文注
◇月賦販賣にも應じ候◇
冬物洋服調製季來る
◇御一報次第參上仕り候◇
HiGHER M TAiLOR
高島屋高等洋服店
【白銀町驛前元髮結學校跡】

石城産科婦看護婦學校
校主　鷹崎貞衛
校長　同　千代子女史
同校内
磐城派出看護婦會
派出需に應ず

竹屋流盆石景
古流華道　教授
天田とよ子
白銀町一五

多田井質店
平大工町

【接尾字順】

山崎與三郎
鈴木辰三郎
白井一郎
加藤丈夫
諸橋守次
中野甲藏
草野順平
仲里文平
金成通

平町會議員一同

平町公私立學校長懇話會

石城郡第三區小學校長會

石城郡銀行組合

各國文房具・運動器・萬年筆
新刊圖書・雜誌・唐紙用紙類
書肆　清光堂本店
平町二丁目九番地
電話　二三一番
振替　五三八八番

良品廉賣に勝る商略なし
確實敏捷は㊏の生命なり
◇質優良
◇價格最低
◇在庫豊富
◇出荷迅速
◇金取引

和洋銅鐵金物問屋
磐城平町五丁目
㊏釜屋商店
振替口座東京一〇九五六番
電話九番・一三九番

内外有名賣藥・處方箋調劑
山野邊藥局
藥劑士　山野邊東次郎
平町五丁目北角

名人手拭・印半天專染所
吉田屋染工場
平町五丁目一二番地
電話五五八番
振替仙台五三二八番

建具・指物製作大勉强
荒川淺次郎商店
平町六丁目

内外木材商
㊐吉田廣三郎商店
平町搔搥小路、電話六五九番

貸家の御用は
加藤營業所
平町白銀町、電話三二番

海産物薄利卸小賣
磐城名物鯛でんぶ本舗
阿部源商店
平町三丁目　電話五二七番

歐米オートバイ代理店
Ⓢ山光堂自轉車店
平町六丁目　電話五五〇番

鐫刻篆筆耕
諸印刻　方圓堂
平町一丁目角

優良蒲鉾・鰹節
御祝儀物仕出
新築紀念大勉强
藤市商店
平町二丁目　電話三〇五番

平町建具指物業組合
事務所　平町五丁目井筒屋

農工用小型石油發動機
單相モートル及諸機械
田邊忠藏商店
平町白銀町（平驛前）
電話二六七番

産婆
平町白銀町一一番地
草野奈津子
◇貧困者は無料にて御扱ひ申し候

平藝妓屋組合

平料理屋組合

砂糖荒物雜貨卸小賣大勉强
境屋商店
平町一丁目電話一五〇番

洋服及毛布・絹布其他洗濯一式
毛織物美術色揚及改造
平ランドリー洗濯店
平町白銀町十一番地

絹布織物一式
㊏正木織物所
平町六丁目九一番地

佐藤榮吉商店
平町六丁目

高久病院
平町字田町
電話五一三番
院長醫學士高久忠
副院長新潟醫學士赤羽清
藥局長藥劑士佐竹菊雄
◇第二室增設　入院隨時◇

口腔外科・齒牙治療一般
佐藤齒科醫院
院長　佐藤武之
平町四丁目電話五〇八

御料理大勉强
越の家
平町二丁目南河岸　電話三三〇番

鑛山支柱專用鋸
炭燒用木炭鋸
大工用鋸製造販賣
中屋號
竹田儀平
平町立町　振替仙台二四〇一

㊏米穀商
木炭商
郡司吉男商店
平町六丁目　電話（ク）ン）又八（ク）